

志木ロータリークラブ

2022-23年度 国際ロータリー 会長 ジェニファー・ジョーンズ「イマジン ロータリー」
 2022-23年度 第2570地区 ガバナー 村田貴紀「地域と世界でつながる力を磨き奉仕を实践しよう」
 2022-23年度 志木ロータリークラブ 会長 小林八郎「新たな一歩」

第2363回 移動例会

2023-5-10

- ◎司会 三上 隆俊 副会長
- ◎点鐘 小林 八郎 会長
- ◎ソング 君が代・奉仕の理想
- ◎ソングリーダー 岩下 正基 副SAA
- ◎四つのテスト 岩下 正基 副SAA

また、興味深かったことは、日本がスペイン風邪の第2波に直面していた1920年、今から約100年前、ちょうど現代のように感染症による危機の時代に、小説家の志賀直哉が「小僧の神様」を書いていることです。その小説「小僧の神様」の内容については、ネタバレしてしまうので割愛しますが、「利他」とは何か、どうあるべきかについて、志賀直哉も100年以上前に考えていました。

その他にも、パプアニューギニアで数百年も前から伝統的に行われていた「クラ交換」、チェーホフの「かき」の話も出てきて、東工大の学者がさまざまな角度から「利他」について研究をしています。しかしながら、未だ道半ばであり、結論は出ていないという印象でした。

私は、専門的なことは分かりませんが、「利他」を考え、実践する際に重要なことは、「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」ことだろうと考えます。食べるものがないからといって、魚を分け与えても、魚がなくなればまた空腹になってしまいます。また、子どもたちの学校がないからと学校を建ててあげても、教える先生がいなければ、単なる箱であって意味がありません。

したがって、「利他」や奉仕を考える上で、先を見通す想像力、洞察力が私たちに求められているのではないのでしょうか？ これは、事業を持続可能となるように考える、経営者にとってもまた必要な力です。ロータリークラブの楽しさの一つに、そのような先を見通す力を育むこと、探究することがあるのかなと思います。引き続き、私も皆さんと共に、「新たな一歩」を考えて参りますのでよろし

「会長挨拶」

会長 小林八郎



新緑が鮮やかで、木々を渡る風がすがすがしい季節となりました。新型コロナの分類が以前の2類から5類へという発表もあり、先週のゴールデンウィークは、賑わいを見せたところも多いと聞いておりますが、私は、久しぶりにのんびりと過ごすことができました。

さて、2月に少しご紹介した『「利他」とは何か』という本の中で、コロナ危機により、若い人たちも「利他」や「贈与」について関心が高まっているということを知りました。それは、インターネットを活用した寄付をはじめ、コロナ関連で支援をした若い人は、中高年よりも倍以上と多くなっているといえます。

5月は「青少年奉仕月間」です

くお願いします。

さて、本日は会長エレクトの市之瀬さんによる次年度アワーです。私からのタスキに拘らず、自由に快活な想いで取り組まれることをお願い申し上げ、挨拶いたします。

「理事会報告」(5/10分) 会長 小林八郎

1) 6月の例会について

6/7(水)クラブ協議会 イニシエーションスピーチ (白井会員・高橋(良)会員)

6/22(木)18:00 最終例会 スエヒロ三芳店

2) IMについて

6/4(日)受付 15:30～ 点鐘 16:00～19:30

場所: ベルセゾン

第1部 各クラブ発表「コロナ禍での経営」上野会員発表

第2部 懇談会「大栄翔、その強さとは」トークショー

3) 会員候補者について

会員候補者2名承認。この後全会員に通知していきます。

「幹事報告」

幹事 吉原 正



1. 地区事務所より4件受信

①2023-24年度青少年交換委員より「第54期留学説明会」開催案内

日時: 4月23日(日) 14:00

場所: 国立女性教育会館研修棟 201号室

②村田ガバナーからの郵便物に伴う当地区ガバナー補佐の見解案内

③地区運営に関わる重大なお知らせ

④富士山でエンドポリオを発信 ポリオ撲滅チャリティ案内

日時: 8月20日(日) 本庄 7:30 川越 8:30

富士登山 登録料 20,000円

2. 志木市観光協会より令和5年度志木市観

光協会通常総会開催通知受信

3. 志木市青少年育成市民会議より令和5年度同市民会議総会開催案内受信

4. 志木市青少年育成市民会議だより送付について受信

5. 社福)朝霞地区福祉会より朝霞地区福祉会理事長交代通知受信

6. すくすく卒園記念号 Vol.550 受信

7. ハイライトよねやま Vol.277 受信

8. バギオだより Vol.96 受信

「委員会報告」

●会長エレクト 会長エレクト 市之瀬正靖
4月23日の地区研修審議事項等報告

●社会奉仕委員会 委員長 遠藤貴博



①いろは親水公園への時計塔寄附が市役所に受理されました。

②4月19日に行われた献血活動ですが、目標50名に対し、59名の方に献血を頂きました。皆様ご協力ありがとうございました。

③5月13日(土)川と街をきれいにする運動です。皆様の参加協力をお願い致します。

●親睦活動委員会 委員長 宮田泰彦



最終例会&新会員歓迎会

日時: 6月22日(木) 18:00点鐘

場所: スエヒロ

出席は会員の義務です。メイクアップを忘れずに!

◇2363-2
志木RC会報

■和光RC

毎週(月) 12:30~13:30 郵便事業(株)和光支店3F

事務局 048-465-0088

■朝霞キャロットRC

第2第4(月) 19:00~20:00 スマイルホテル 3階ホール

事務局 048-470-6811

●米山担当

高野邦夫

先日(4/22)元米山奨学生のソダリ・セル・バハドル君の長男のお食い初めのお祝い(ネパール式)に岩下さんと一緒に行ってきました。

仕事も元気に頑張っているようです。

志木クラブの皆さんにくれぐれもよろしくとのことでした。

「今月の誕生日祝」 親睦活動委員長 宮田泰彦



5日 岩下正基会員 19日 神山昌之会員
19日 榎本秀夫会員 22日 坂間智子会員
23日 志村武一郎会員 26日 吉原 正会員
30日 戸國大介会員

「『ロータリーの友』記事紹介」

雑誌委員会 宮原克平委員



『ロータリーの友』5月号記事紹介

今月は青少年奉仕月間です。従って青少年に関する記事が多く載っています。

【横組】

P8 リーダーを育む ロータリー青少年交換プログラム

村上采(あや)経験から自分の意見を持ち、それを発信し議論する、そして行動する。

P10 宮脇路子 フィンランドのライフスタイルに魅了された。

P12 近藤修一 当クラブへ卓話に来てくれた方です。

【縦組】

P9 麻生菜穂美 交換学生を経験。

P34 パキスタンでの女性の活躍振りを紹介。

P13 卓話の泉 国内の養鶏場に関する怖い話、ぜひ、ご一読ください。

P19 会員にとっての今年の「漢字一文字」
当クラブでも今年年末あたりにやってみては如何ですか？

「ショートスピーチ」

「お誘い」

田中幸彦会員



最近小林会長からのお誘いがありません。コロナのせいも有りましたが、やはり会長になると何かと忙しいのだろうと思っていました。ところが何回か前の例会で始まる前、肩を寄せて「田中さん、ちょっと！」久々の飲み会の誘いかなと思った瞬間、「次回ショートスピーチ頼むよ！」でした。という訳で今回になりました。

何を話せば良いのやら、自分の若い頃の話はイニシエーションスピーチで話したし、ロータリーに入会した切っ掛けは、小泉会長年度の「私とロータリー」で会報に掲載しているし、今は特別な趣味も無し、後は仕事の事、それじゃ野暮だし、やっぱりロータリーの事

しかないのかと。ということで思いつきました。

お誘いと言えば、コロナ禍の前は年に一度クラブの親睦旅行に誘い合い参加していました。その親睦旅行だけでは物足りないという訳ではないのですが、以前より数名の気の知れた諸先輩方が個人的に栃木県の加仁湯温泉に行かれており、何時しか私も誘われ参加するようになり、何度か一泊二日の旅行をしてきました。そこは一般車両が通行禁止の先にある宿で、混浴であり、冬の秘境の雪景色は最高でした。ただ秘境なので、露天風呂に入るまでに裸で凍った階段を降りて行かなければならず、そこで滑って露わな格好を披露する破目になった方もおりました。ロータリーの裸の付き合いの始まりです。学生時代の修学旅行のようでした。何度か続けて行くと別の温泉にも行きたくなり、順番で計画し、場所を替えて行くようになりました。妻には「家族でもそんなに行かないのに、男同士で出掛けてどこが楽しいの！」とよく言われていました。新潟塩沢石打からの大沢山温泉、雪で覆われた入口からの玄関、雪の中の温泉、囲炉裏での一献。又、上田別所温泉かしわや別館、群馬県法師温泉長寿館、長野渋温泉金具屋等楽しく出掛けてきました。

大人のお付き合いはゴルフ、釣り、飲み会等が一般的ですが、何々会の旅行とは別に、男だけの小旅行も志木クラブに入会しなければ経験できなかったでしょう。ロータリーの仲間、仲間と言っては失礼かも知れませんが、このような親密なお付き合いができるのも、お誘いがあり、ロータリーならではの思いかと思います。「お誘い」は多過ぎると、時にはうっとうしく面倒になり、無いと寂しくなります。程々が良いのですが。しかし、このように楽しく良い思い出が手に入ります。又、次に家族と行く時の下見にもなります。こんな事を言っていると妻に「もっと遠くへ連れてけ！」と又叱られますね。

これからは、コロナ感染症の規制も緩和されたので、“程々”に誘い合いながらロータリーライフを楽しみましょう。

「卓話」

「次年度会長アワー」 会長エレクト 市之瀬正靖



皆さんこんにちは、次年度会長を仰せつかりました、市之瀬正靖です。

本日は、次年度会長アワーということでお時間を頂きありがとうございます。

次年度の一年間は、これまで先輩方が築いてきた志木ロータリークラブの歴史を大切に、多様な意見を聞きながら『自分らしさ』も忘れずに活動して行きたいと考えております。宜しく願いいたします。

まず初めに、次年度会長アワーに入らせていただく前に、5月5日に石川県能登地方で発生しました地震により被災されました方々、またお亡くなりになりました方にお悔やみとお見舞いを申し上げます。

2023年から2024年度ゴードン R. マッキナリーRI会長のテーマは

『世界に希望を生み出そう』です。

ゴードン R. マッキナリーRI会長は、国際協議会の会場で「ロータリーの仕事のいくつかは、ほかの人たちの継続的な取り組みをサポートすることかもしれません。継続とは、以前のリーダーたちのよいアイデアを前進させることを意味します。すべての行いにおいて多様性、公平さ、インクルージョンを促進するためにロータリーが遂げてきたすべての進歩を全面的にサポートしたい。変化に必要な知識と勇気をロータリー会員に与え、行動計画を協力して推進することはリーダーシップにおける最良の継続に他ならない」と言っています。

例会は変更になる場合があります。ご確認下さい

◇2363-4
志木 RC 会報

■新座RC 毎週(木) 12:30~13:30 ベルセゾン
■富士見RC 毎週(金) 12:30~13:30 島田ビル1F

事務局 048-473-7041
事務局 049-251-6596

2570 地区高丹秀篤ガバナーは、『希望を語ろう - We are Rotary, together -』とテーマを発表しました。

「今までの活動の“継続”とはこれまでのリーダーのアイデアや取り組みを“前進”させること、多くの場合“前進”するためには“変化”“脱皮”すること、前進へのプラットフォームを構築することが必要だ」と言っています。

高丹ガバナーは、

1. 【クラブ活性化支援】
2. 【会員の学びをサポート】
3. 【クラブと地区をより身近に】
4. 【地区活性化の行動を起こそう】

の4項目を行動計画の中で掲げています。

さて、次年度の当クラブの会長テーマは『調和』としました。

皆さんは、『調和』と聞いてどのようなイメージを持ちますか？ おそらく、「ととのっている、バランスがいい」といったところでしょうか。広辞苑には、「うまくつり合い、全体が整っていること」と記されています。波風たたない、なだらかなイメージがある調和を、京セラの創業者である稲森和夫氏は、「調和とは、自分だけでなくまわりの人々みんなが常に幸せに生きることを願う心」と言っています。私たちロータリアンの精神は、「奉仕の理念」にあります。先輩方の知恵と経験、会員皆様のお力をお借りしながら、地域の幸せと笑顔が繋がるように次年度のテーマを『調和』とし、志木ロータリークラブの活動を行っていきたいと思っております。

この三年間、私たちの生きる社会は新型コロナウイルスによって大きく変わりました。新型コロナウイルスの流行で命を失うだけでなく、多くの人が傷ついてきました。ゴードン R. マッキナリーRI 会長も「人と人がつながる機会が失われ、教育や対人スキルを身に着ける機会を最も妨げられている世代が、子どもや若者だ」と言っています。行動を制限されたことで、多くの人が社会的な繋がりを絶たれ、心に孤独を抱えた人が増えたように思います。

私も三人の娘の父親ですが、これまで青少年相談員やスポーツ少年団など地域活動に参加させて頂いてきた中で、子どもたちとのかかわりを持った活動をしてきました。その経験の中で感じたことは、子どもとは、自分が必要とされたい、自分の個性を理解し認めてほしい、居心地の良い場所・やりたいことを見つけないと願う一人の意思を持った人間だということです。子どもたちの願いは人と関わる中で育ち満たされていくのです。また、コロナによって大切な心の育みを妨げられたのも今の子どもたちです。今の子どもたちの中で、うごめく問題を想像してみてください。いじめ・不登校・貧困・ヤングケアラーなど幾つもありますが、その中で私は心の居場所・よりどころがなかったり、困っている時に「助けて・手伝って」を言えない、そのサインに気付く大人がいないことだと思います。人と人が関わることで、相手を知り・自分を知り・社会を知っていく、その経験を制限された結果、今自己肯定感の低さが問題となっています。自己肯定感とは、自分自身をありのままに認め、受け入れ、尊重し、肯定的に受け止められる感覚のことです。この感覚があるかどうかは、将来の仕事や対人関係、自己実現にも影響を与えます。自分を認めるように他者を認め、自分を尊重するように他者も尊重できること (I'm ok, You're ok) の感覚を子どもたちが持ち、明るい未来に期待できる社会を私たち大人がその土壌を整えなければいけないのではないのでしょうか。

私は、子どもたちの夢や希望の手助け、子どもたちが本来持っているすばらしい生きる力を十分に発揮できるような事業を行いたいと考えております。そのためには、会員相互の意思疎通を図ることが大切です。お互いに思いやりを持ちながら継続と変化をもたらしていましょ。会員相互のコミュニケーションを図るために、親睦活動・炉辺活動を進めてまいります。

最後に、主語は子どもたちがとし、調和と笑顔を大切に一年間となるように会員皆様のご協力を頂き努力をしてまいりますので、ご指導ご協力をお願い致します。



●出席報告 出席向上副委員長 武藤典夫

会員数48名 出席義務者45名 免除者3名

本日出席	本日欠席	本日出席率
42名	6名	89.36%

前々回 MU	前々回修正出席率	平均出席率
(5名中1名)	91.49%	87.26%